

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成 26 年 2 月 27 日 (2014.2.27)

【公表番号】特表 2013-517571 (P2013-517571A)

【公表日】平成 25 年 5 月 16 日 (2013.5.16)

【年通号数】公開・登録公報 2013-024

【出願番号】特願 2012-549090 (P2012-549090)

【国際特許分類】

G 0 6 F 3/0346 (2013.01)

G 0 1 B 7/00 (2006.01)

G 0 1 B 7/28 (2006.01)

G 0 1 D 5/241 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 3/033 4 2 4

G 0 1 B 7/00 1 0 1 R

G 0 1 B 7/28 A

G 0 1 D 5/241 A

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 1 月 6 日 (2014.1.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 1 2】

図 1 4 を参照すると、実施形態により一般的に構成されるセンサシステム 1 4 0 2 を組み込んだ実施例のシステム 1 4 0 0 が例示されている。センサ装置は、システムに組み入れられ得るし、或いは独立型の製品として構成され得る。独立型の製品として、センサ構成要素は、筐体（図示せず）に收容されることができ、電気接続は、装置またはかかる装置を利用するシステムと接続するために曝露され得る。当業者は、本明細書に記載する実施形態によって構成されるセンサが異なる産業セクターで広範に使用されている筐体にどのようにして組み込まれ得るかを即座に理解するであろう。従って、例えば、システムにおいて、機械的な接続、設計、及び構造が、特定のアプリケーションのために必然的に変化し得る。例えば、指紋センサとしての使用のためにラップトップに組み込まれると、表面取り付けモジュールが、センサグリッドラインをユーザに曝露するために採用される必要があるだろう。携帯電話や携帯情報端末（PDA）などに組み込まれる場合は、センサの動作能力を提供しつつ特定の装置設計に適合させるために、別種の取り付けモジュールが、必要となるだろう。再び、図 1 4 は、図示されてはいないが、実施形態によって構成された、上部層 1 4 0 6 と底部層 1 4 0 8 を有し、アプリケーションに応じてそれぞれピックアップラインかプレート及び駆動ラインかプレートを有し、折り畳んだフレキシブルまたは硬質な基板 1 4 0 4 を有するセンサ 1 4 0 2 を組み込んだシステム 1 4 0 0 を図示するものである。二次元感知領域 1 4 1 1 が上部に物体 1 4 1 0 を伴って示されているが、ここでの物体は、指紋センサの場合、指とすることができ、その他のアプリケーションの場合はその他の物体とすることができる。上部層のピックアッププレートまたはライン（図示せず）は、受信した合成信号を送るために通信リンク 1 4 1 2 を介して上部プレート処理回路と通信する。駆動ラインまたはプレートは、本明細書では図示していないが底部層 1 4 0 8 に配置され、通信ライン 1 4 1 6 を介して底部プレート処理回路 1 4 1 4 から駆動信号を受信する。上部プレート処理回路は、ピックアッププレートまたはラインか

ら受信した合成信号を受信し、増幅し、及び／またはバッファリングし、或いは保存するように構成されたフロントエンドバッファ及びアンプ 1416 を含む。図 9 に示すようなスイッチアレー 1418 が、フロントエンド 1416 から信号を受信し、切り替え信号をデジタル信号に変換するために、アナログ・デジタル (A/D) コンバータ 1420 に送信するように構成される。デジタル信号プロセッサ (DSP) 1422 は、A/D コンバータ 1420 からデジタル信号を受信し、送信のために信号を処理するように構成される。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0114

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0114】

動作時、駆動信号は、プロセッサ 1444 によって制御され、底部プレート処理回路 1414 からの駆動信号のパラメータが、プロセッサ 1444 によって底部プレート処理回路 1414 内に設定される。駆動信号は、発生器 1426 内に設定されたパラメータ内の論理回路 1424 によって生成され、通信リンク 1416 を介して底部プレート 1408 へ送信される。これらの信号は、感知領域 1411 周辺の上部層 1406 上のピックアップラインへと延在する電磁場を生成する。これらの信号は、(図示しないが、上述した) センサグリッド上の異なるピクセル電極対を通して循環され、これらの電磁場のいくつかは、物体 1410 (例えば、指紋など) によって吸収される。合成信号が (図示しないが、上述した) 感知領域 1411 周辺の上部層 1406 上のピックアッププレートまたはピックアップ回路によってピックアップされる。その後、合成信号は、通信ライン 1412 を介して上部プレート処理回路に送信され、信号が処理され、さらなる処理のためにメモリ装置またはプロセッサ 1444 へ送信される。ひとたびドライバとスキャン論理回路がグリッドセンサ上のピクセルを循環すると、物体の特徴、特性に関するデータがシステムによって明確化され、利用され得る。例えば、指紋センサシステムにおいて、画像は保存された指紋画像と比較され得る指紋画像とすることができ、照合すれば、ユーザの認証に使用され得る。

【手続補正 3】

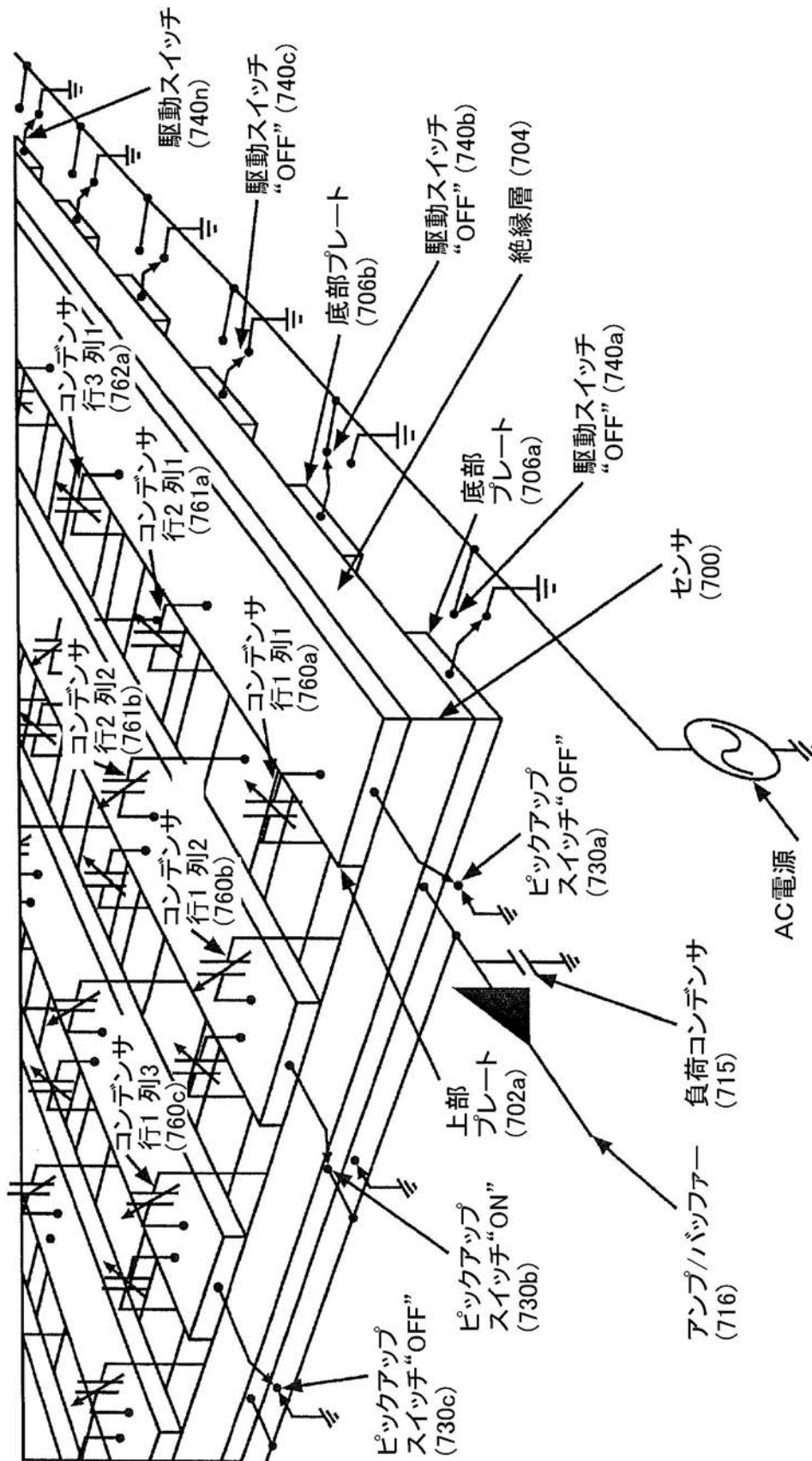
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 7】



【手続補正 4】

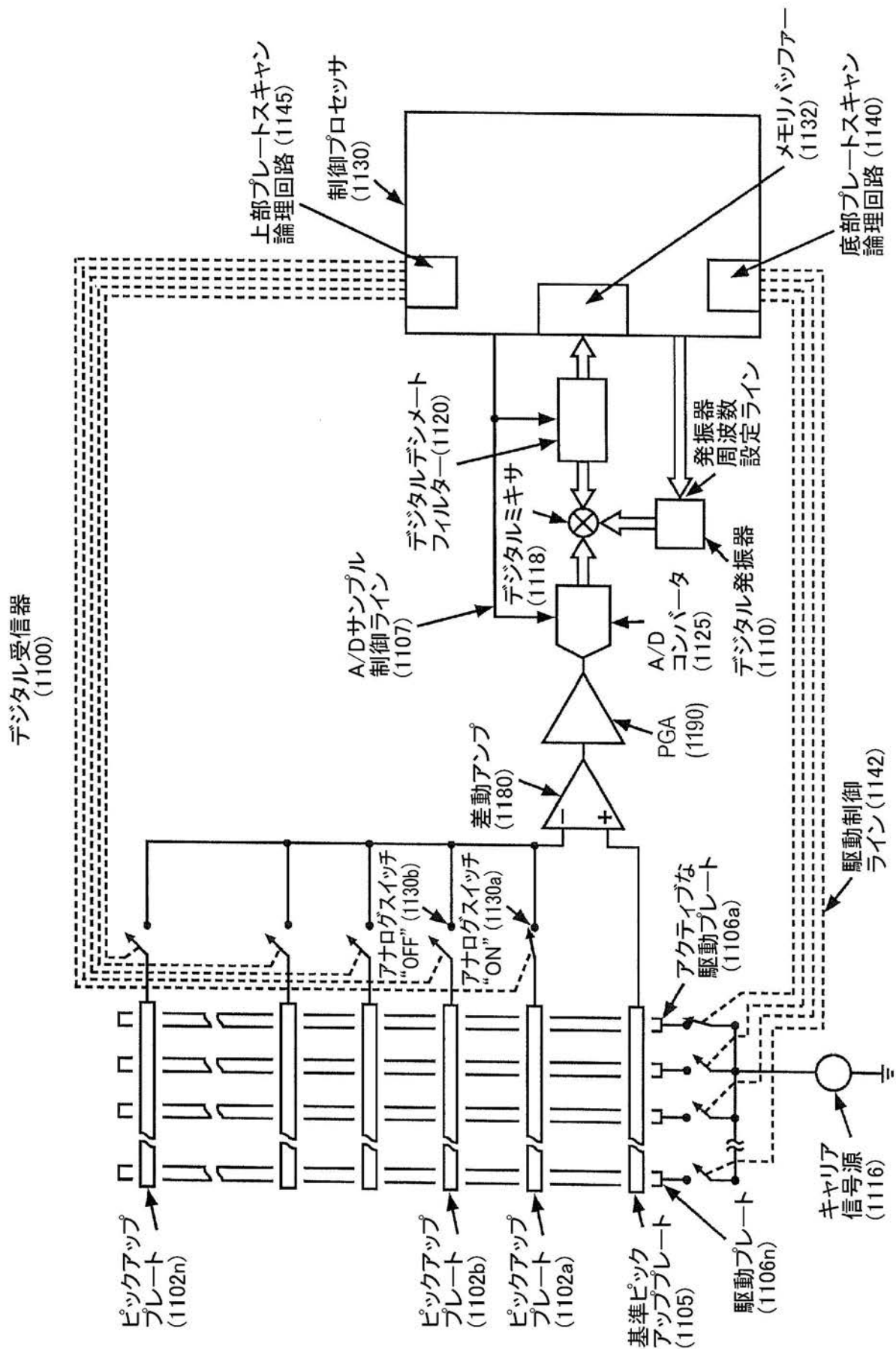
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1 1】



【手続補正 5】

【補正対象書類名】図面
 【補正対象項目名】図 1 4
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【図 1 4】

